

表1 コミュニケーション・チャネルの特徴
(マス・メディア、インタラクティブおよび個人間通信の対比)

チャネル特性	対面個人間通信	インタラクティブ (機械介助による個人間相互通信)	マス・メディア
1. メッセージ	一人から数人へ	多数から多数へ	一人から多数への流れ
2. 情報源の受け手に関する知識	情報源は受け手個人に関する知識を個別にもっている	情報源はインタラクティブ・システム参画者個別の知識を豊富にもつことが可能	情報源は媒体組織そのものであり受け手への知識をほとんどもたない
3. 細分化の程度	高い(非大衆的)	高い(脱大衆的)	低い(大衆的)
4. 相互作用性の程度	高い	高い	低い
5. フィードバック性	豊富かつ即時的	限定的範囲内で即時的または遅滞的	高度に限定的かつ遅滞的
6. 非同期性(メッセージの保存蓄積能力)	低い	高い	低い(ただし書籍、新聞など高い機能もある)
7. 社会的情緒性	高い	一般に低い	一般に低い
8. 非言語的通信機能	きわめて高い	媒体によっては高いものもある	印刷媒体は低い。視聴覚媒体には高いものもある
9. コミュニケーションの流れの制御	参画者による均等制御が可能	参画者による均等制御が可能	受け手側にはほとんど制御権がない
10. プライバシー性	低い	通常は低い	高い

(E.M.ロジャース『コミュニケーションの科学』安田寿明訳、共立出版、1992より)